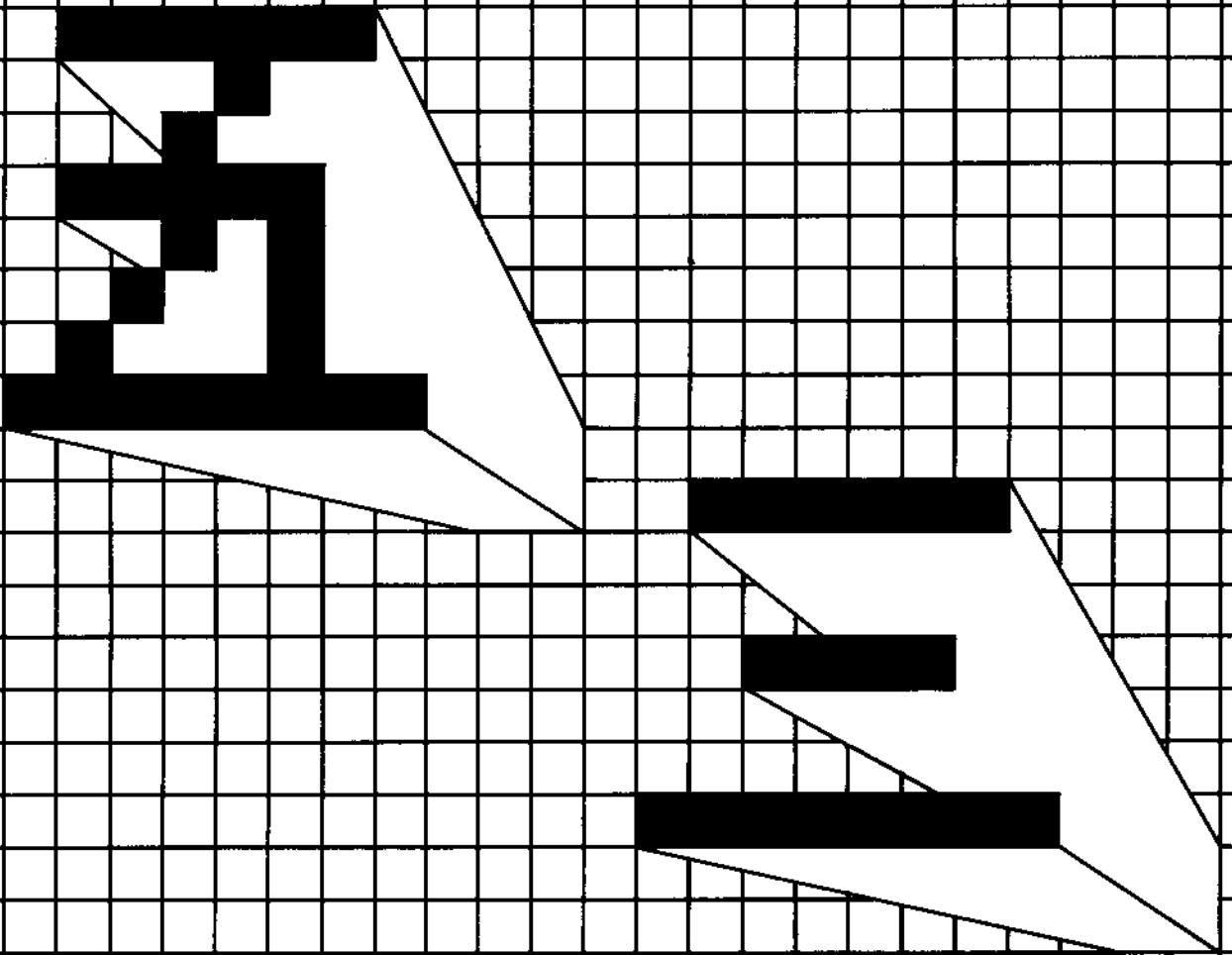


# 五三会

広島工業大学建築学科同窓会  
第13号 昭和61年度版



# 目次

五三会諸賢に申し上げます	佐藤重夫	1
五三会の皆さんへ	中塚晴夫	2
近畿支部だより	人船百弘	3
OBだより	NASA 金堀一郎 佐伯誠 上井一恭 上木薫	5
在学生だより	高市芳樹 山本重信	11
第11回五三会コンペ入選発表	西原淳	13
コンペ講評	佐藤重夫	16
第12回五三会コンペ作品募集		17
第13回総会のお知らせ		20
建築学科ゼミ紹介		21
昭和60年度内定者一覧		23
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿		25
広島工業大学キャンパス案内		26
五三会活動報告		27
五三会収支決算報告		28
広島工業大学建築学科同窓会「五三会」会則		29
役員の変遷		31
五三会第13号（昭和61年版）スポンサー一覧表		32
編集後記		33

# 五三会諸賢に申し上げます

広島工業大学建築学科

主任教授 佐藤重夫

五三会会員諸君、今年また総会を迎えて、諸君の益々の御発展をお祝します。現在の日本では建築関連の世界は必ずしも上等ではなく、辛抱と努力とでやっと支えられているといっても過言ではありません。また文明の進展に応じて、とかく細分化される建築界はともすれば本筋の建築というものをうかつにも忘れかける危険にさらされながら、諸君はよく本分を尽されているものと頼もしく信じています。先日も多くの県や市の建築関係の方にある会議で会し、たいへん多くの五三会会員の御活動ぶりを聞き、実に有難く、また頼もしく思いました。

また五三会の諸君も、広島工大の現在の学生さん達も一人一人、みんなすばらしい人物であることを私は常に痛感しています。これは何時とはなく一期の方々から次第と築き上げられて来た光輝ある教室の学風であると信じて、感謝しています。熱心で凝り性もあり、そうして心広いところもあり、決しておごらず、元気でもあって、明るく、教職の一人である私もたいへん愉しく忙しくすることができるとは感謝感激であります。

私は近来、殊に次のようなことをつくづく考えています。それは永く活きる建築というもの人間と同じだということであります。あるいは子に孫にと健康に繁栄する人生の連続さとも同じだということであります。どんどんと文明が発達しても、ずっと喜びも悲しみも持ちつづけてゆく人生の容器である建築は人の喜びや悲しみに上下がないと同様に、よい建築はいつの時にもその人の顔や心そのままを包み容れるものであるからです。一個人の思い付きの一時の芸術性が何時までもその人生の感情をふくよかに包擁することのできるものであれば、その芸術性は永遠の建築になるでしょう。しかし、とかく人まねの多い建築は果してどうなのでしょうかと申すこともあります。建築はやはり能面と同じく、

中間の芸術に控え目でないと本物にならぬように思います。われわれがみんなで作る建築であるだけに難かしいが、それだけに面白い建築というものに関わることができるとはまた有難いことだと思います。五三会の諸君如何ですか。どうかお元気に、今後の御活躍をお祈りします。

昭和61年2月22日



## 五三会の皆さんへ

---

五三会会長 中 塚 晴 夫

会員の皆さん、元気に過しておられることと存じます。母校も樹令30年を迎え、記念事業を抱え皆さんに負けじと、ますます意気盛んな気配です。又広島市も世界の舞台で色々な事業計画をしております。同窓の方達も3000名という数字になりました。

母校の躍動に、広島の振興に、日本の活性化に深く関わっておられることでしょう。

日本の広島、世界の広島へと脱皮していく時機が来ているのかも知れません。そしてそれは広島は広島であり、又広島であり続けることが必要条件かも知れません。

同窓の方々も随所で会われることが多いことと存じます。協力し合って、より良き方向へと精進下さいますよう心からお祈り致します。

## 近畿支部だより

新井組建築本店設計部 入船百弘

私は卒業後、4年間大阪大学でお世話になり、昨年4月新井組設計部に入社し現在27才の新入社員です。入社して早や10ヶ月、企画・基本・実施設計や確認申請etcの申請業務の作業に追われ、毎日忙しいですが、多くの事を学ぶ意気込みで頑張っています。

先日、先輩の方から、五三会近畿支部について原稿を書くように依頼があり、重い筆を取り懐かしい学生時代を振り返って考えてみたいと思ひ引き受けました。

学生の頃は五三会の存在をあまり知りませんでした。が、大学2年生の頃、私が所属していた研究室では毎年、秋になると五三会の「コンペ」に全員で参加することが恒例になっていました。そこで、コンペでは1つのテーマを題材に先輩・後輩がセミナーで学んだ事をベースに対話する時間を取り、共同作業のプロセスを大切にしながら作品ではなく習作を制作することを目標に日夜努力していました。また、それが契機となり、学会、新建築、セントラルガラス、日清工業etcのコンペにも抵抗なく参加することが出来るようになりました。現在の広工大生はどうですか。学校の製図の課題をこなすのに精一杯でコンペに参加しない人が多いのでは？先生方のセミナーも不人気で「単位さへとればいい」などといった人が多いのでは？また、研究室もゼミ員全員がそろって楽しく話しかける時間はそんなに長くないのでは？最近の学生はアルバイトで稼いだ金で旅行やスキーなどレジャーを楽しんだり、あるいは部活が待っているなどと、落ちつかない日々を送っているのでは？

世の中が豊かになって人びとの活動分野は数倍も多様になった。ゼミの構成員も、それぞれ自分の活動分野と生き方を大切にしようとする。

そんな身の回りを眺めて、ゼミ室で肩を寄せ合った時代をなつかしむ人もいるだろう。しかし、豊かさの定着で、ゼミの役割も変わ

ったのだろうか。同様に五三会の役割も変わってきているのか。今にして想えば、私も微力ながらその当時、ゼミをひいては五三会を陰で支えた一人であったのかもしれない。

卒業後、私は大学院受験で大阪大学の研究室に行きつきり、設計事務所に就職した友人は、現在の私のように次から次へと仕事に追われ、落ちつかない日々を送っていた事と思います。そんなある日、近畿地区で活躍している有志を紹介され、ひさびさにあの忘れかけていた広工大時代の熱い血が湧きたちました。その後、近畿在住の諸先輩達に有志が声をかけてくださってそれから各職場単位ではなく、もっと和を広くひろげてゆくという主旨で、4年前の57年11月に「五三会近畿支部結成準備総会」2年前の59年11月に「第1回五三会近畿支部総会」と2回の総会が催されました。その際、先輩達は五三会本部と共同歩調をとりつつ、しかも他の支部と異なる独自の目標をOB間に訴えていかなければ、近畿支部を確固たるものにすることが出来ないという意見がありました。そこで、近畿支部が存在しても、支部の基調が従来と同じではあまり意味がない。それにこれからの近畿支部は再度支部を総点検することなしにスタートしない。そうすると近畿支部は、今までの保守的な他の支部の中でもかなり異色といっている。その基調はいわば、近畿支部理念について平川会長の説明がある。準備総会で、「同窓生同志の連絡の場」と「後輩を迎える場」の2つの場の必要性を感じていると共に母校広島工業大学との連絡を緊密にするといった知識と技術の交流つまり、〈情報交換の場〉を設立することである。近畿支部のアイデンティティはこれだというものをつくる時に来たのです。

しかし、有志が現在の学生のように、各層各職場で独自の価値観を大切にするようになってくると五三会の求心力が以前ほど動かなくなってくる。有志の目にはそれが欠陥と映

---

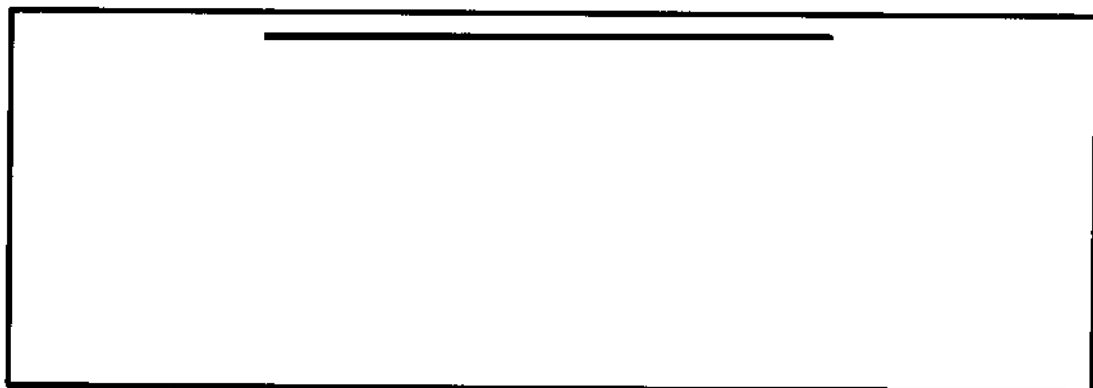
るのだろう。OBを大きく束ねていかなければならない。またそれが近畿支部の役割となる。

今、近畿支部の求心力になるものを設定することが、本当に必要だろうか。OBを束ねることが、五三会の目標としてふさわしいだろうか。自分に「何を近畿支部の今後の目標とすべきか」と問う。「自由とチャンス」だと答える。だれだって好きな生き方ができるし、努力さえすれば可能性はある。一人ひとりのチャンスをつぶさず可能性を伸ばす手助けをするのが昔も今も変わらぬOBの役割だと思う。

近畿支部では準備総会や総会成長のために強力な役員の指導力やOBの一体感がそれなりに有効だった。しかし、今必要な近畿支部

の役割は各層各職場の多様な価値観の共存を図っていくことだと思う。そこで、私は個人的な意見だが、例えば、毎月1回有志が集まれる場所を設けて、OBが現在、各職場でやっていることや考えていることなどをテーマに設定して持ち回りで酒でも飲みながら講演を行い対話する機会を設けて交流を深めるのはどうだろうか。ひとつ提案してみたい。

近畿支部の育成をめざす上で、OBに対して支部の理念を語りかける姿勢が必要である。そこを欠いたままでは五三会は前進しない。いわば階段の踊り場で長く辛抱した有志がいよいよ階段に上ってゆくべき年を迎えたのである。価値の多様化した社会にふさわしい支部の在り方を考え実行していきたいと想っています。



# 協同組合



NASAと言ってもアメリカの宇宙局ではない!!

そもそも協同組合NASA都市連合の始まりは、広島工業大学建築学科44年卒の仲間が週1度ぐらいは情報交換をしようではないかと集まったことに始まる。

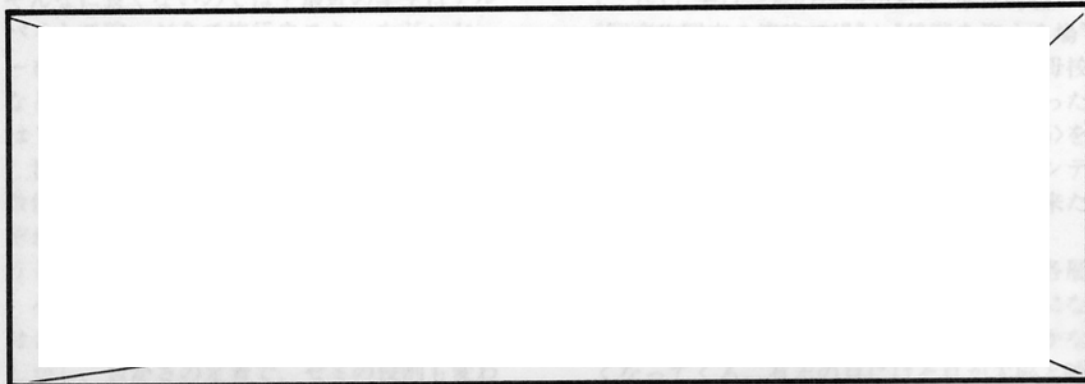
月日がたつにつれ勉強会の形に変わり、未来の集合住宅、地域開発、町づくり、商店街再開発等を考え、時には現地（大分県日田市駅前商店街再開発、富山県滑川市商店街再開発、兵庫県塚口市ミニタウン“つかしん”等々）に乗り込み関係者とディスカッションなどを行なっている。写真は、NASA都市連合会議室でメンバーの昼食会風景の1コマである。今ではスライドなど関連資料も増え、広島県、広島市の指名に入り積極的な活動をしている。

又これ以外にも就職相談に応じたり、サロンの利用もおこなっている。



### NASA都市連合構成員

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 株式会社青木設計事務所      | 青木能典  |
| 造設計集団A A設計室      | 中塚晴夫  |
| 株式会社 KAZI建築設計工房  | 三上明夫  |
| コニシ建築設計事務所       | 小西芳雄  |
| 有限会社 五代設計コンサルタント | 佐々木秀之 |
| 高岡昌弘建築総合研究所      | 高岡昌弘  |
| 水野良信建築設計事務所      | 水野良信  |



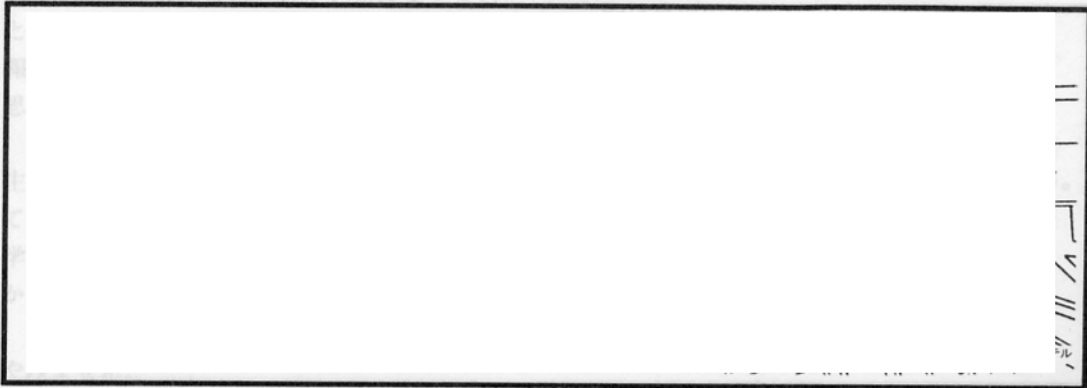
AS

私の学生時代の振り返り「由郷ふる」の「和養」を「ネットワーキング」でサポート  
 卒業4年目、元気に出勤  
 都市連合  
 (株) 佐金 及 品物 奉 行 会  
 土井一恭 (57年刊)

N:Native	A:Approach	S:Security	A:Amenity
----------	------------	------------	-----------



事務局 〒733 広島市西区中広町2丁目20-10 寺本ビル2F TEL (082)292-0456(代)





## インテリアコーディネーターを養成している理由

広島インテリア協議会・事務局長 金 堀 一 郎 (45年卒)

建築学科2期生である私は、昭和45年4月卒業以来住宅の仕事に取り組んでいる。大手プレハブメーカー、システム住宅研究所、そして帰郷し地元の住宅会社を経て現在は、住宅設計の傍ら、インテリアコーディネーターの育成に力を注いでいる。

プレハブメーカーでは、現場監理、設計、代理店指導、ユニットハウスの商品開発等々、住宅研究所ではオープン部機としてのプレハブ住宅の商品開発に携ってきた。こうして十余年住宅産業の渦中にあるうち、住宅産業の構造的変化を予感した。その予感とは、住宅産業のソフト化への傾向である。

戦後の我国における絶対的な住宅不足のなかで、昭和40年代の経済高度成長時代に、プレハブメーカーは急成長を成し遂げ、住宅産業を形成した。この住宅産業とは、人が住むための箱（シェルター）を造る産業に他ならない。

いかにして、いい箱をより安く造るかということに没頭してきたが、成熟経済に入った

昭和50年半ばの頃から、この事に疑問を感じ始めたのである。丁度その頃、生活者達も住宅という箱を所有することに拘らなくなってきた。今、生活者達が住まいに求めているものは、モノ（住宅）を所有することではなく快適さ（快適な住環境）なのである。

こうした生活者ニーズの新しい潮流のなかで、住宅メーカーは、いい箱をつくることだけに専念していたら生き残れない。箱を造る技術に加え、生活者個々に対応した快適な暮らしを創るシステムを持たなくてはならない。

インテリアコーディネーターという職能は快適な住環境をつくり、心地よい暮らしを生生活者の立場で演出する仕掛人である。インテリアコーディネーターは昭和58年度より、通産大臣認定の準国家資格となっている。今後インテリアコーディネーターが住宅産業界活性化の重要な要になってくるであろうし、また、ニーズの高度化・多様化した住まいづくりに欠かせぬ存在になってくるものと思う。

## 私の学生時代を振り返って

藤竹中工務店広島支店 佐伯 誠 (47年卒)

同窓の皆さん、又現在在学中の皆さん益々ご健勝のことと存じ上げます。私も社会に出て早いもので14年目を迎え、家庭にあつては主、会社では中堅クラスの仲間入りとなり忙しい毎日を送っております。

最近同窓生との交流も少なく成り、ちょっと寂しい感も有るこの頃です。私事で申し訳け有りませんが、学生時代の思い出は特にサークル活動で得た貴重な体験です。2年生の時から有志を10人程度集め某先生の研究室を借り切りアーバンデザイン、集合住宅、都市論etc. について共同学習というかお互いを啓蒙し合い、夜遅くまで酒をくみ交わしたり、論舌をぶつたり、真面目に課題設計をしたりで、今考えると真に有意義な学生生活で有ったと思います。

又、時には設計室を集団で占拠していると某教官にたしなめられた時に、我々の活動の有意性を彼に理論武装で立ち向かい、ついには正当化されてサークル用研究室を提供していただき、卒業設計を終えるまで3年間皆と共に活動出来たことは、今でも忘れ得ぬ思い出です。

数年前本学の助教授とお会いする機械が有り、最近の学生は我々の世代に較べ優秀ではあるが、活発さがなく研究心が足らないと嘆いておられました。

思うに、私の学生時代の設備に較べる程もなく立派な施設が提供されている現実を見るとうらやましくも有りますが、最近の高度情報化社会の傾向が何でも与えられ過ぎる様に思われます。

これらの施設を有効に使うかどうかは在学生自身の問題と思いますが、やはり社会に出ても全く同じ事ですが、行動力、積極性、向学心、個性を養うことこそ本来の姿ではないかと痛感致しております。

最後に皆さんの今後増々のご発展を願ってやみません。

## 卒業4年目、元気に出勤

広島市役所 企画調整局企画担当

上井一恭 (57年卒)

目覚しが鳴っている。  
ねむい。

時計をみた。  
7時50分。  
ちょっと遅いと思う。  
昨夜は7時40分にセットした。  
鳴りだして10分たつわけだ。

7時55分。  
そろそろやばいと思う。  
でも起きない。  
8時ちょうど。  
ビールの空缶に捨てた吸殻が少しくさい。  
目覚しはまだ鳴っている。

8時5分。  
完璧にやばい。  
目覚しをたたく。  
パジャマを脱ぎながら台所へ向かう。  
ソルトサンスターに右手を押し  
歯磨き粉の少し散った鏡に  
自分の顔を映してみる。  
歯を磨きながらソックスを履き  
ワイシャツのボタンもはめられるので  
顔を洗い終わる頃にはネクタイも締めている。

8時15分。  
アパートを出る。  
愛車に乗り市役所へまっしぐら。  
南吉島からは鷹野橋商店街経由がはやい。  
髭は車の中で剃る。  
やはりブラウンミクロン。  
2号線に出るあたりで完了する。

月12,000円の駐車場に車を入れ  
バックミラーでネクタイの歪みを確かめる。  
頭右後方に寝ぐせが少々。  
職場に走る息が白い。

# 広島を考える

広島県庁都市局営繕課 上 木 薫 (51年卒)

私は現在、広島県庁都市局営繕課に席を置いています。

県庁に入って以来、否、学生時代から10年余り建築設計なるものから遠ざかっていたもので、昨年春配属から今月の約1年間は、初体験的な当惑と失望と感動ばかりの連続で、学生時代を思い出させます。

また、仕事を通じて同窓生に会ったりするたびに、改めて自分が建築学科の卒業生であることを意識すると同時に、同窓生の社会での活躍を認識させられたり、建築界の動きが非常に気になってきたりもします。

広島の地には、特に同窓生が多く五三会のメンバー諸氏の活躍を見聞します。

さて、この広島に住んでいると、どうも広島のことばかりににくくなるようです。広島の実現をもっと外から眺めてみる必要があります。

最近、幸か不幸か、地域経済講座という研修を受ける機会があり、その中で文字通り「広島を考える」と題した講義を受けたので、ここではその概要なり雑感を述べてみたいと思います。

講師は広大教授とら樺本巧氏で、講義内容は、雑誌「政治・経済セミナー」に連載されている同氏の「広島を考える」という論文をテキ

ストにしたものでした。

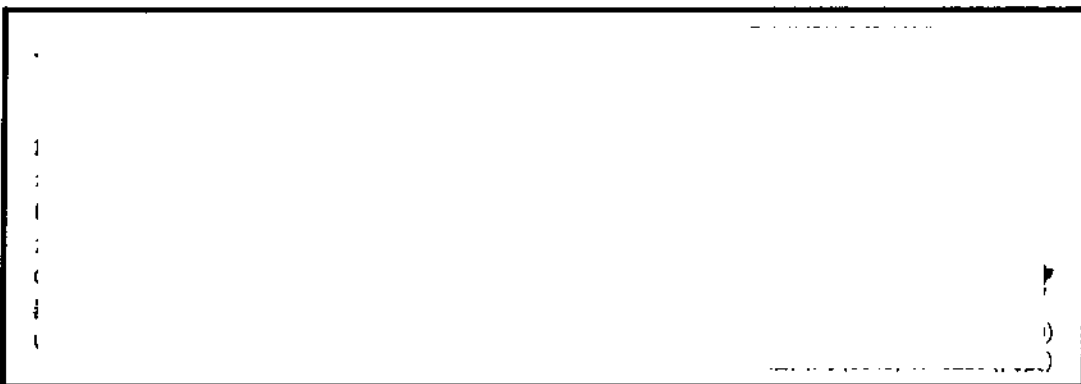
“大先生”の論文の概要を一言で言える訳もありませんが、紹介の意味も含めて敢えて申せば「支店経済の広島は、将来どのように変化するのであろうか」といった問題に取り組まれたものなのです。

もう少し具体的に述べれば、広島は東京や大阪、愛知といった本店の多い経済の影響を強く受けながら支店経済として、中国地方では管理機能をもつ都市として、全国的にも高い地位を築いてきたが、製造業の停滞、ニューメディア等の発達でこの本店経済、支店経済の役割、勢力関係が大きく変わりそうだ。広島がこれまで築いてきた地位を維持、あるいは高めるためには、どのような問題、課題があるか……といった内容です。

この講義は図表がたくさん使われ、絵で見ないと理解しない小生には大変分り易いものでした。ここで一貫して流れているのは、広島の「地位」を全国ランキングで表示していること。その指標は「民力指数」に見られるような経済指数、文化指数です。

つまり、広島の位置づけを全国レベルで都市経済から相対的に位置づけて説明されていることです。

このことの良し悪しは別として、物事が説



明されるのに指標化して相対比較されることはよく用いられる手法ですが、これは総合的な指標ではないという点に留意する必要があります。

この講義の中で私は質問を2つ行いました。第1は「地域経済として広島的位置づけを行う際、こうした都市経済の観点からのみでなく、生活する側の観点からの指標化はできないものですか？」何故なら、GNPに示されるような経済力指数が仮に高まったとして、暮らし側からの生活指数のようなもの、例えば利便性、保健性、安全性、住環境等、強いて言えば“暮らし良さ”の指数が示されないと、何のための“活性化”か判らなくなるからです。

答えは、「世界の経済学者がこれまで試みていづれも失敗している」ということでした。

第2の質問は、広島県北のことに触れ、「農山村は、沿岸部以上に厳しい現実がありますが、地域経済という観点からどう捉えてゆけばいいのですか？」

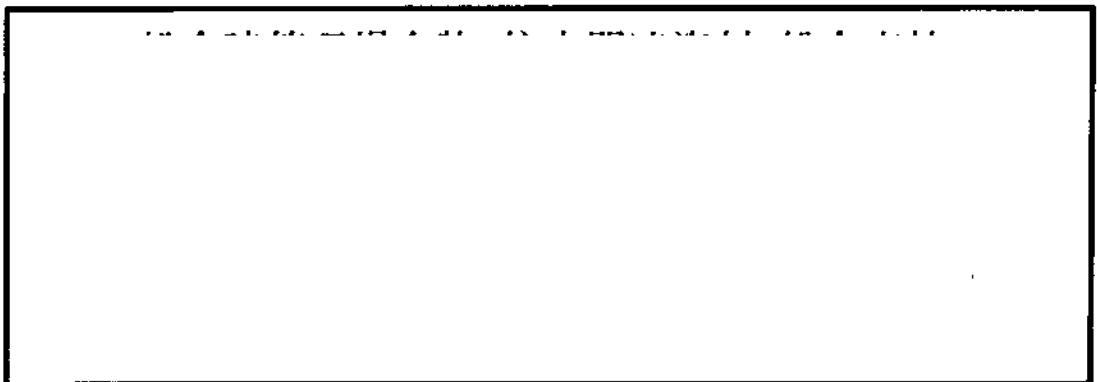
これに対する回答はありませんでした。今の状況では、これは当り前かも知れませんが

若干の期待があっただけに少々落胆しました。

今、国内では「民間活力の導入」「○○の活性化」等声高に叫ばれ、景気浮上に懸命です。活力をもたらすことは必要ですが、工業化社会の中であって、これらの経済政策がうまく生活の豊かさに反映されるものでなくてはなりません。

身近な例で言えば、全国的に都市部においては線引きや用途地域が見直され、ここ広島の地でも見直し案が新聞記事になっています。そこでのニュースバリューは、例えば「都心部の容積率大巾緩和、建築活動が促進される」といったように目に見える効果が注目されます。ところが、高容積率と地価上昇の問題、都心住居(マンション等)の居住環境及び公共公益施設の整備等についての問題等、問題、課題がたくさんある訳です。

我々は経済活動(都市経済=量=相対的なもの)に力を入れる際、効果又は結果としての生活実態(質=絶対的なもの)を見過ごさないよう、建築の領域においても、自覚したいものだと思います。



## 在学生だより

### 若輩者が最近思うこと

高市 芳樹

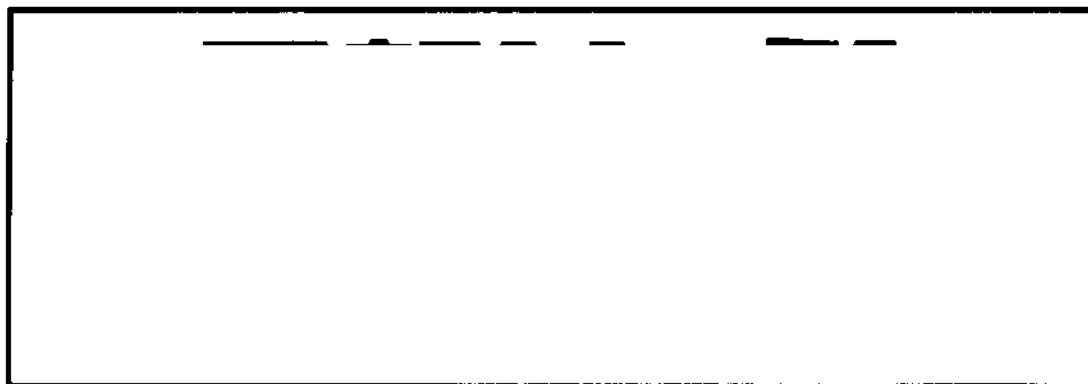
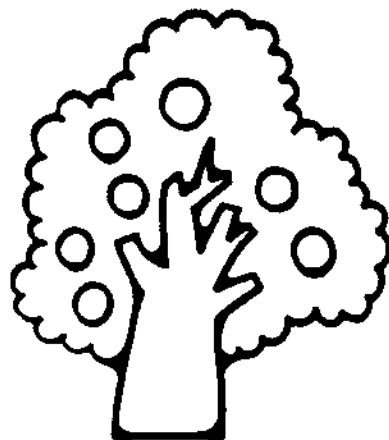
「建築とは何であるか。」「それは芸術である。」多くの建築家たちは、このように答えている。私には、まだそれが何であるかは、全くと言ってよいほどわからない。一生わからないままで終わるのかもしれないが……。

私が入学して間もないころ、ある4年生の先輩が、「建築には『これ』というものは無い。全てが建築なんだ。」とおっしゃいました。その時、私はピンと来たようで、実際には来てなかったように思う。言葉の「うわべ」だけを取っていたようだ。しかし、最近「建築」を考える時、一言で言い表わすには、あまりにも大きすぎて、抽象的にしか表現できないもののように思う。けれど、いろんな切り方がある。我が大学の「計画」「構造」「設備」の三系列も一つの切り方であろうし人間工学的に見るか、心理学的に考えるか、これも一つの切り方であろう。まだまだ数え切れないほどの切り方はあると思う。それらは、全て知っておかなければならない知識であるが、全て踏まえた上で、どの切り口で、何を基準にしてゆくかは、その方向づけだけは自分の判断でできる。個人個人の性格、考え方が違うように、建築に対する見方、考え方、とらえ方

も一様ではない。しかし、その人なりの「これ」というものを何か持っていさえすれば、建築はどんなものにも「成る」と思う。

自分の在り方、考え方、思い込みが全てに対して満足できれば、その時「建築」がわかるのではないだろうか。そしてそれらの結合が「建築」ではないだろうか。

今現在、私に対する「建築」とは「自分自身」であるかもしれない。



## 建築に関して

山本重信

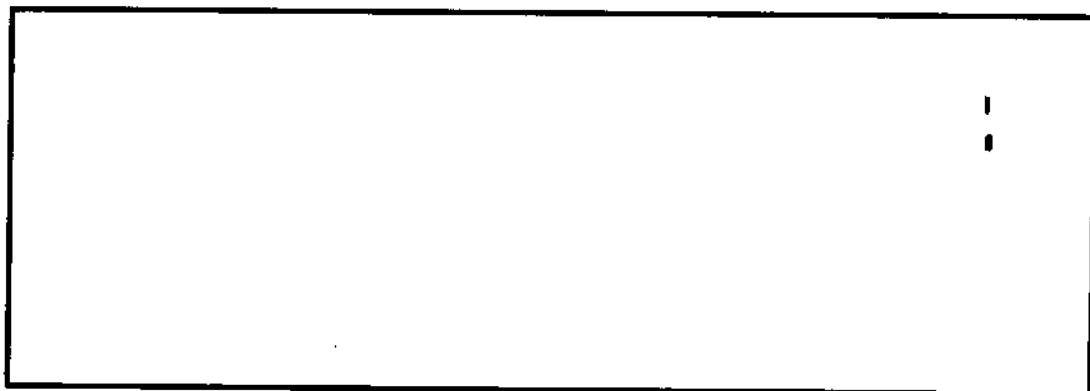
自分は今、建築に対して、最近ではあるが興味というものを持ち始めております。しかし、今自分がやっている建築における勉強というものは、なぜか受け身にまわっている。そんな自分に疑問を持ち始めて、何か建築に関する勉強をしなければならないと思いつつも、あまりやっていない。そんな感じで今の時を過ごしています。もったいないような気がします。こんな事をしていて、社会に出たときもっと勉強していればと考え、不安でしかたがないです。

そんな中で今考えていると言うか疑問を持つ事があります。それは、建物を計画していく上で、3次元である建物を平面図等（2次元）に現わす時に、3次元のものを2次元で表現するのだからそのギャップはあるのかもしれない。でもそんな当然的な疑問が、おかしいと思えなくなっているのではないのかと思う。例えば両義的、曖昧な空間を表現する

時に平面で考えて、それを3次元にも出せと言われても今の自分の力では、それが出ているのかいないのかもわからずにやっている。それにつけ加えて、今、建てられている建物に対して、自分たちは何かおもしろくない。構造力学的なもの、コスト的なものが多く建てられているので、3次元などの空間的な意味などはどちらでもよいと感じて、建築の規格化、機械化が自分の中で起きて、良い建物を見ても感動できなくなって来ている自分に腹だたしさを覚えるのであります。

今から自分は、建築に関わって行きたいと思いますが、試行錯誤によって自分を形成して行きたいと思えます。

最期に、今、建築をやっていて少し楽しいとは思えなく、苦しい感じしかないけれど、やっていてよかったなと思えるようになりたいと考えます。



# 11th ITSUMIKAI COMPETITION

## 第11回五三会コンペ入選発表



審査風景

### コンペ報告

第11回五三会コンペ実行委員長  
西原 淳

昭和60年9月30日、第11回五三会コンペ一課題「現代の方丈庵」一は締切日を迎えた。

応募する側にとっても、受入れる側にとっても、今までの苦勞が喜びに変わる瞬間である。

応募作品は、学内より9点、学外より7点の計16点。今回、賞金総額が10万円に下がった事、各大学共、前期末試験とコンペの締切日が重なっていた事などを考慮した時、応募数の減少が予想されたが、予想外に多数の応募があり、我々コンペ委員としても感謝にたえない。

審査は、10月13日 広島工業大学建築学科にて行われ、佐藤重夫先生の厳正な中にも温情あふれる審査により右記の様な結果となった事を報告する。

昨年、コンペ作品募集の時に述べた事を再度くり返す事になるが、『10年をひとくぎりとするならば、11回は再スタートの年である。』様々な事情が重なり「五三会コンペはしばらくの間休止」という決定を覆しての強行。今回は文字どおり再スタートであった。同時に

#### 最優秀賞

梶原 直樹	岡崎 実	古田 和成
宮本 洋一	吉野 和典	迫田 拓夫
中川 功	星野 行宏	森松 充弘
山根 秀幸	(広工大)	

#### 優秀賞

井伏 克則	山本 重信	宮本日佐美
		(広工大)

#### 優秀賞

相本 雅浩	(福山大学)
-------	--------

#### 優秀賞

大元 尚弘	(福山大学)
-------	--------

#### 優秀賞

岸谷啓太郎	(広島大学)
-------	--------

#### 佳作

梶原 直樹	岡崎 実	古田 和成
宮本 洋一	吉野 和典	迫田 拓夫
中川 功	星野 行宏	森松 充弘
山根 秀幸	(広工大)	

#### 佳作

秋本 勝哉	小田 忠将	畑中 修輔
		(広工大)

#### 佳作

盛岡 隆治	正岡 一弘	(広工大)
-------	-------	-------

#### 佳作

石川 邦浩	(福山大学)
-------	--------

#### 佳作

三井 邦生	(広島大学)
-------	--------

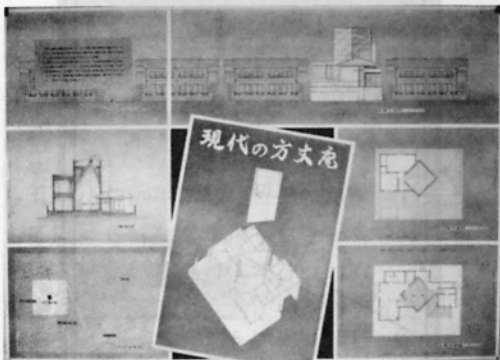
#### 佳作

長光 信治	(広島大学)
-------	--------

コンペ委員のメンバーも入れ替わり、不慣れな事も多く、至らぬ事も多々あった事を誌上ながら、心より御詫び申し上げたい。又、我々若輩者のわがままを「せつかく出て来た若い芽を摘み取ってはいけない。」と笑って許して下さい下さった幹事の皆様、陰ながらいろいろ御指導下さった旧コンペ委員の皆様、そして多忙なスケジュールにもかかわらず、快く審査を引き受けて下さった佐藤重夫先生に只々、感謝の言葉を申し上げたい。

「皆様、本当に有難うございました。」

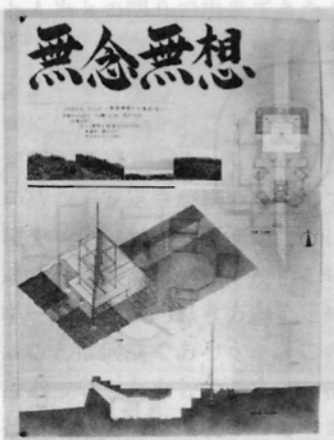
# 入選作品



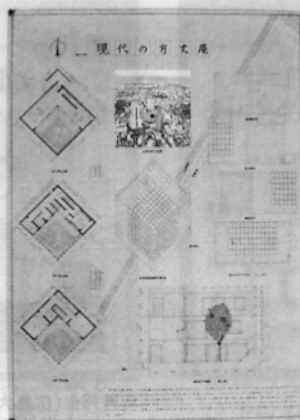
最優秀賞

梶原直樹・岡崎 実・古田和成  
宮本洋一・吉野和典・迫田拓夫  
中川 功・星野行宏・森松充弘  
山根秀幸 (広工大)

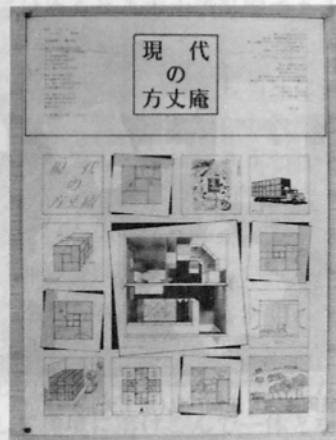
## 優 秀 賞



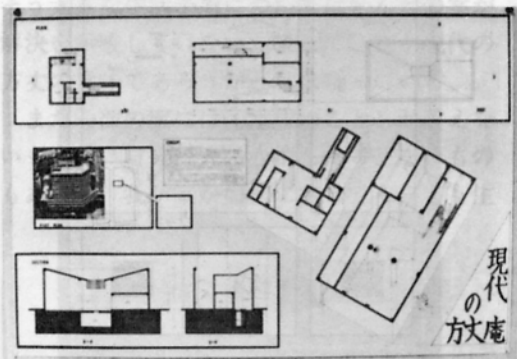
井伏克則・山本重信・宮本日佐美  
(広工大)



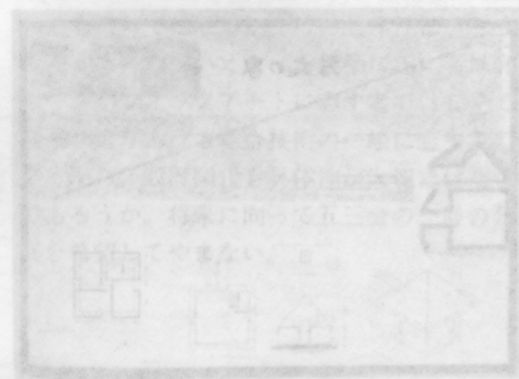
大元尚弘(福山大学)



相本雅浩(福山大学)

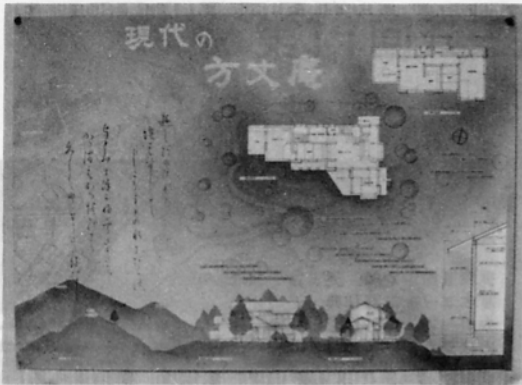


岸谷啓太郎(広島大学)

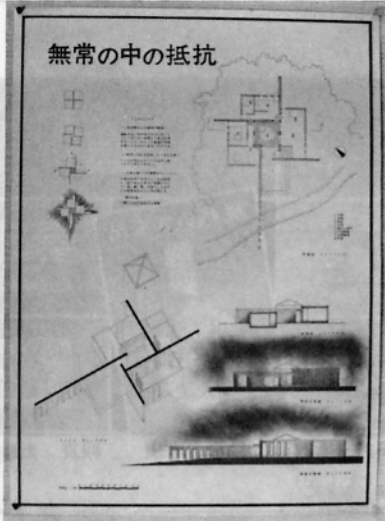


(早大山部) 藤田 吾

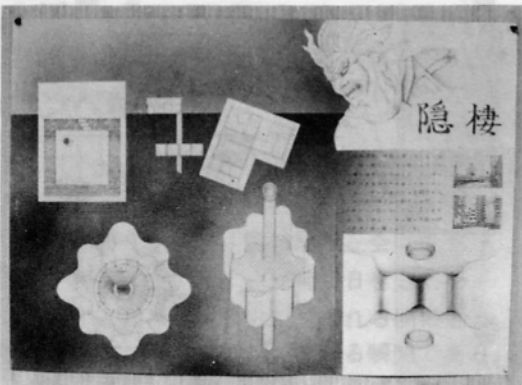




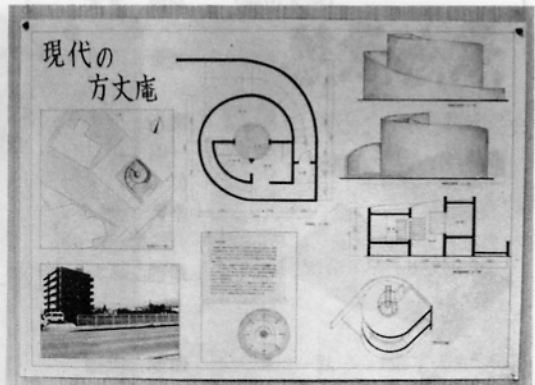
梶原直樹・岡崎 実・古田和成・宮本洋一  
吉野和典・迫田拓夫・中川 功・星野行宏  
森松充弘・山根秀幸(広工大)



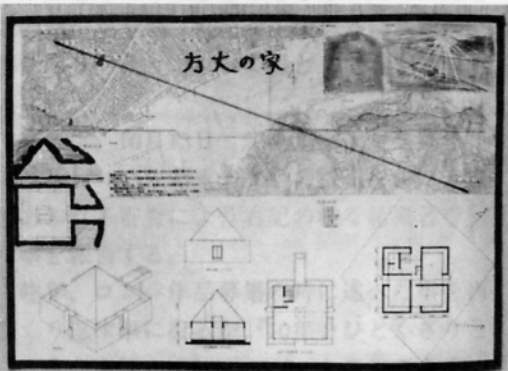
秋本勝哉・小田忠将・畑中修輔  
(広工大)



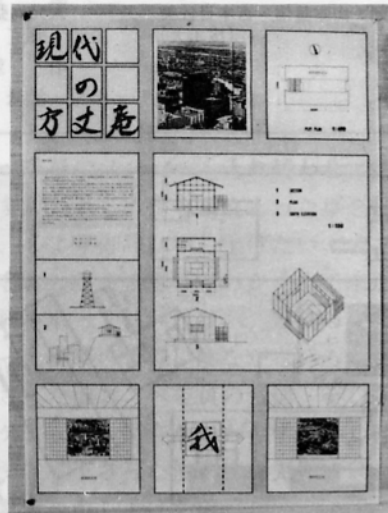
盛岡隆治・正岡一弘(広工大)



三井邦生(広島大学)



石川邦浩(福山大学)



長光信治(広島大学)

## 設計競技応募案の講評

昭和60年10月13日

佐藤重夫

五三会が例年に倣い行った設計競技に賛同して応募された案が16案もあったことは喜ばしいことで、審査の依頼を受けた私としても感謝にたえない。課題が現代の方丈というもので、それをどのように取り上げるかは全て応募者の思想そのものによる。ただ、応募案全般について言えることは凡そ次のようなことであった。

われわれの生活の存立は自然環境と、それと人為との関りで出来てきた全ての環境の中の矛盾、相克、共存、理解の中にどんなことを正しく、楽しく、心として見出して、心豊かに生きぬくかのことであり、その場の設計図化が課題である。しかし、現代社会の青年の持つ不安定さが禍いしたのであろうか、環境や社会に対する不満が、単に空虚、孤独、遮断、逃避、隠ぺい、拒否という一方的な、単一的、閉鎖的思考方向を定めてしまっていることは何故であろうか。このことは単純化はあっても人をして孤立、無機化し、家族も社会も、遂には環境そのものまでも否定してしまうことになる。応募案は現代への反撥と共存の悩みそのものを示しているともいえるが、その僅かな一部を単純に打開しようとしても、その結果として、逆に発生する一そう大きな生活矛盾については殆んど案が解決を示唆していない。果してこれが現代の方丈の意味であろうかと私は疑っている。

また一部の案には「家族のことしか考えないものや、自分一人の心情しか考えないものもあるが、我が家が如何に独尊であっても生

活の場とはなりえないことは確かである。住いあつてのコミュニティーではなくて、コミュニティーあつての住いであることを忘れてはならない。ものと人、人と人の心の通いや結びからみの人としての生活も喜びも悲しみもあることであり、常に時と共に生活も人も人の心も進み動く生活が創り出せる場、それが方丈ともいうべき家ではないであろうか。従ってどの案も社会を導きえるほどに、社会にそのまま当てはめられる方丈設計案であるとはどうも言えないと思う。これは方丈という課題名が適切でなかったからかも知れない。

凡そ方丈記は実存を形で否定したのではなくて、逆に実存そのものを輝かそうとしたものであるのに、応募者は方丈という二字を誤解しているのではないであろうか。むしろ現代の都市の郊外最少限住宅とでもいったような解り易い課題である方が好ましかったであろう。もっと生活のはつらつとした明るい、前進的文化的心の通う方丈こそ本物で、それは矛盾を打開して環境に溶けこんで一体となったものであるはずである。

選に入ったものも、漏れたものも大きな差のあるものではないが、その具体性に少しづつ差があったといえよう。建築に志す者は評論やグラフィックアートに志す者ではなくて、建築を造りあげる総合技術の一端に志す者であるから、設計図化も具体性が大切ではないであろうか。将来に向けて五三会の一層の発展を希望してやまない。

## 第12回五三会コンペ作品募集

五三会コンペも今回で第12回を迎える事が出来ました。これも皆様方の御支援の賜物と思っております。

さて今回より五三会コンペは、より身近で、地方色あふれるコンペとして『広島街づくり』をシリーズに定め、広島県内の具体的敷地を選んでテーマを決めて行きたいと思っております。今回は、建築学会コンペの中国支部審査員を務められ、審査経験の豊富な広島工業大学助教授・谷喜夫先生に審査のお願いを致しました。多数の応募をお願いします。

〈課題〉

「連歌」

——ポストオフィスのある広場——

〈主旨〉

個々の欲望の赴くままに、経済性のみを追求して乱立する建物群。現代の都市的状況を眺めた時、その向うに透かし見えて来るのは、只、私利私欲に走るのみの、なんと醜き人間像であろうか。人の心までは変えられずとも願わくば、このような状況に建築を志さず若き力が、歯止めとなってくれん事を欲するものである。

そもそも、我が国の伝統的街並は、〈連歌〉の如く、相互に影響を与え合いながら、一つの統一感（秩序）を持った全体像を自発的に作り出して来た。それは、他者への思いやり、社会的連帯感といった人間としてのベースとなる視座を個々の人間が持つ事なしには成立し得ぬであろう。

このような視座が、なしくずし的に解体しつつある現代の状況の中で、〈連歌〉をキーワードとして、その現代的解決を求めるのが今回のコンペの目論みである。

そこで、広島センタービル西隣、中郵便局の敷地に、ポストオフィスのあるイベント広場と、それをサポートする空間として、小ホール、プラス $\alpha$ を計画していただきたい。

(広場はアトリウムとして建物内に取り込む事も自由とする。)

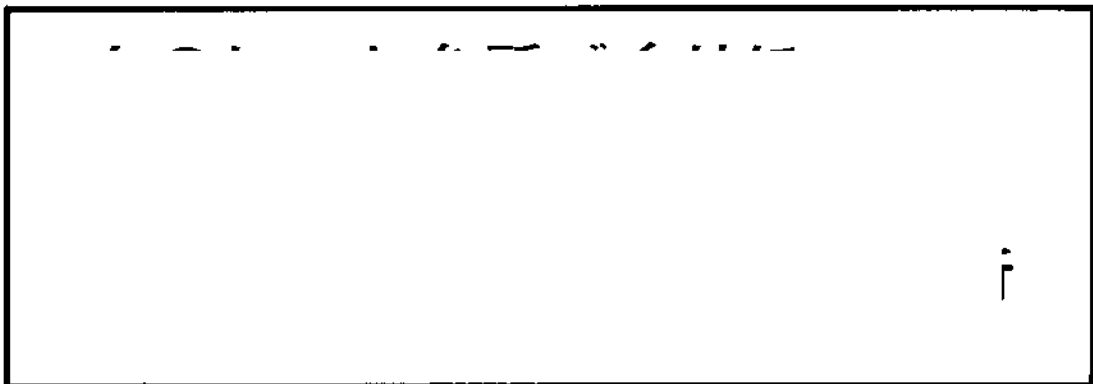
ここで言うポストオフィスは、郵便の集配業務を主体とするのではない。むしろ切手の販売、郵便貯金の窓口業務、郵便に関する総合インフォメーション、ショールームといったいわば、ソフトウェアを主体とする小規模なものを想定している。そして、そのソフトウェアをさらに拡大(客寄せ機能として)する空間として、イベント広場と小ホール、プラス $\alpha$ を考えている。(プラス $\alpha$ の部分は各自の自由設定である。例えば、カフェテラス、ファッションブティック、フラワーショップ、カルチャー教室なども考えられる。)

郵便業務自体が離れた所の人と人とを結びつける機能を持つものであるから、それを容れる空間も人と人とが結びつく契機となる様な空間であって欲しい。

さて〈連歌〉をキーワードとするからには、その発句となるものを定めねばならない。

『この手紙赤き切手をはるにさへ

こころときめく哀しきゆふべ』



ここに若山牧水の歌を引用した。おそらく恋人に手紙を出す時の心理を歌ったものであろう。この歌の上の句を今回の歌会(コンペ)の発句としよう。応募者の皆様、この発句のイメージを出発点として〈連歌〉を行なって見ようではないか。解りにくければ〈連歌〉を〈恋歌〉と読みかえて、あなたの恋人の顔を思い描いて見ればよい。そして、愛する人との楽しい逢瀬を思い描いて見ればよい。そんな楽しい逢瀬にふさわしい場所として、あるいはその待合せの場にふさわしい空間として『ポストオフィスのある広場』を計画して見てはいかがであろうか。

#### 〈条 件〉

1. 面積、規模は自由とする。
2. 基本的には、現行法規に従うものとするが、法的チェックは審査の対象としない。
3. 駐車場は、郵便の集配車が常時駐車するスペースを2台分設ける。来客用の駐車スペースは設けない。

#### 〈所用図面〉

設計意図を表現するために必要なエスキース(パース、イメージスケッチ、模型写真等)を中心とし、主要平面図、立面図、断面図等は必要に応じてA1サイズ用の紙(紙質は自

由)一枚の中に構成する事。なお、各図には縮尺、あるいは主要寸法を記入し、図面のスケールが理解できるものとする。

#### 〈表 現〉

自由とする。ただし未発表のものに限る。

#### 〈応募記載事項〉

作品の裏面に応募者の住所、氏名、電話番号、学校名(会社名)を記入する事。

#### 〈応募資格〉

広島県内所在の大学、工専の建築学科学生及びその卒業生。

#### 〈応募締切〉

昭和61年7月31日 午後24時

郵送の場合は当日の消印のあるものは有効とする。

#### 〈提出先〉

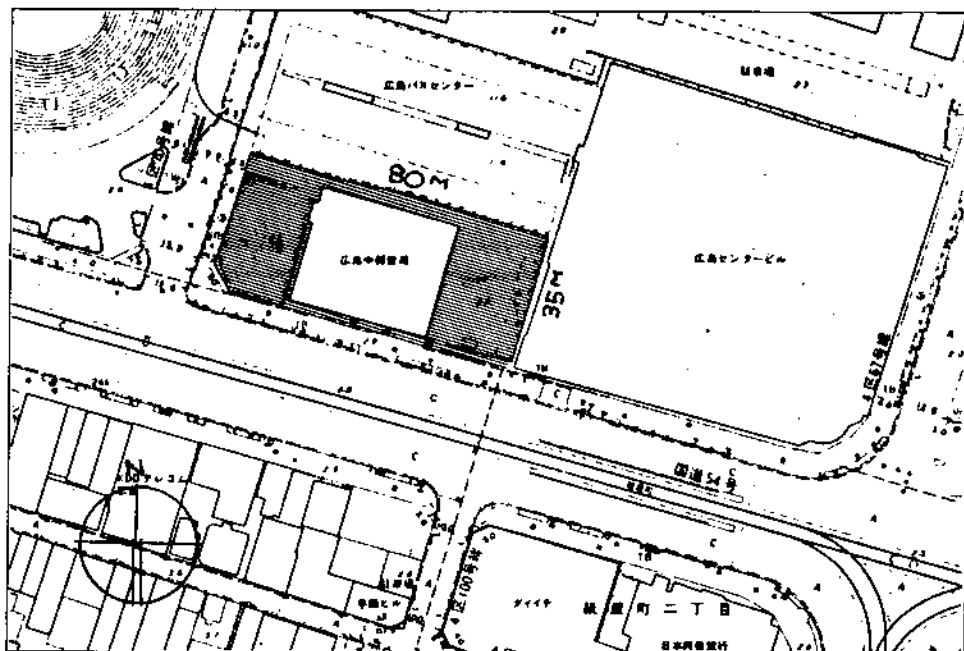
〒731-51 広島市佐伯区五日市町三宅  
広島工業大学建築学科事務室

#### 〈入選賞金〉

総額10万円、応募者に通知するとともに、大学祭(11月3日)にて発表、表彰、展示を行なう。

#### 〈そ の 他〉

作品の返却はしない。質疑応答なし。



〈敷地図 1:2000〉

# 建築学科ゼミ紹介

## (佐藤重夫先生指導)

(設計)

THE AGORA——佐伯区民会館——

佐伯区スポーツセンター

佐伯区保育所

新五日市駅及び駅前広場

“見聞創”——総合文化施設整備計画仮称

“ふくやま美術館”——

山陽新幹線東広島駅

佐伯区図書館

五日市ショッピングプラザ

(論文)

「広島近代建築が都市に及ぼす影響」その問題点と対策についての研究

住宅の形態についての研究

広島市における住宅建築の変遷についての研究

国勢統計区分による居住地及び都市構造に関する研究

広島中長期計画——湾岸道路

## (林先生指導)

アルカリ骨材反応についての基礎的研究

花崗岩の含水率と各種強度との相関についての研究

## (牛島先生の指導)

老人ホームの設計とその施工図

細粒径粗骨材を使用したコンクリートの性状に関する研究

学生の教室内行動に影響を及ぼす要因の研究

## (天満先生指導)

古建築の熱環境に関する研究(復元民家の実測とその比較、検討)

木造住宅床下の強制換気による温湿環境の研究

宮島古民家の調査

広島市南区老人福祉センター計画案の設備計画

復元民家の熱環境に関する研究(もみのき森林公園古民家の実測とその重回帰分析、検討)

復元民家の熱環境に関する研究(旧真野家住宅の実測とその重回帰分析、検討)

古建築の熱環境に関する研究(復元民家の実測と熱収支)

木造住宅のシロアリ被害に関する研究(アンケートによる中国地方の実態調査)

茅屋根材の熱特性に関する研究(非定常実験および解析)

八本松公民館計画案の設備計画

尾道市図書館計画案の設備計画

## (水田先生指導)

ふれあい——青年期における学校——

Community Village——子供達と老人達の交流——

SUNRISE SUNSET (リゾート アイランド)

都市に建つオアシスとしての美術館

LITTLE FRANCE (広島に建つ国際交流留学生センター)

FEELING OF SPORTS (福島町に建つ社会体育施設)

ホップ、ステップ、ジャンプ (小学校)

A PLACE FOR ART——STREET, PLAZA, MUSEUM ——

“復帰”——身障者のための職業訓練施設——

## (高松先生指導)

軸力と単調2軸曲げを受けるH形鋼柱の弾塑性挙動に関する研究

軸力と繰返し2軸曲げを受けるH形鋼柱の弾塑性挙動に関する研究

軸力と水平力を受けるH形鋼柱の弾塑性挙動に関する解析的研究

## (森保先生指導)

(設計)

HOPE計画…新しい近隣性を求めて…

島民センター…異世代交流の核づくり…

HOPE計画～戸と集合の設計計画～

(論文)

建築の空間と形態の把握に関する研究(基本

形態の把握に関する視知覚的実験)  
集合住宅計画の研究——住戸まわりに関する  
文献研究——

集合住宅における住戸の集合性と居住者の生  
活意識に関する研究——基町高層住棟と阿品  
台タウンハウスの場合——

住宅情報より見た広島地区の集合住宅及び独  
立住宅の供給特性に関する研究

**(篠原先生指導)**

広島市内公的施設用ソーラシステムの運転実  
態

空調システムの統計調査

土壌の熱湿気環境に関する研究

温冷感の季節変動に関する研究 (その1)

温冷感の季節変動に関する研究 (その2)

較正型熱箱法熱貫流率の較正に関する研究

腰高窓近傍の熱対流による部位表面温度

**(佐藤立美先生指導)**

薄肉鋼管補強の鉄筋コンクリート柱の剪断耐  
力に関する実験的研究

鉄筋コンクリート有孔梁の開口補強に関する  
実験的研究

鉄筋コンクリート袖壁付短柱の剪断耐力と靱  
性に関する実験的研究

中空スラブの弱軸方向におけるトラス型剪断  
補強に関する実験的研究

**(丹羽先生指導)**

東洋建築史の研究

中国建築の研究

茶室の研究

柱離宮の研究

**(浅野先生指導)**

杭基礎構造物の振動特性に関する研究

地震動の位相差を考慮した立体ラーメンの振  
動性状に関する研究

不整形地盤の地震応答解析

地盤の常時微動特性と建物の震害に関する研  
究——鳥取地震の場合——

ライフラインネットワークの地震時信頼性の  
解析

**(佐藤洋先生指導)**

“単位空間の一次物的構成要素による特性分  
析”

“ホトム図形における色彩調和の心理評価”

“単位空間の二次物的構成要素による特性分  
析”

“単位空間の動作空間構成(三次物的構成要素)  
による特性分析”

**(谷先生指導)**

古備高原都市における多目的音楽ホール

鈴峰に立つ店舗付集合住宅

能美島沖美町の海洋博物・水族館

八千代町のセミナーハウスを備える青少年の  
家

廿日市文化センター

東広島市中央図書館

新居浜市民美術館

広島市立総合グランド内武道館

鞆の浦リゾートホテル

柳井市のコミュニティセンター

井の口台パークタウン内のコミュニティセン  
ター

**(西川先生指導)**

建築設計に於ける安全性の調査研究——広島  
の公営住宅を対象として——

高齢者の住宅供給に関する研究——基町高層  
団地の場合——

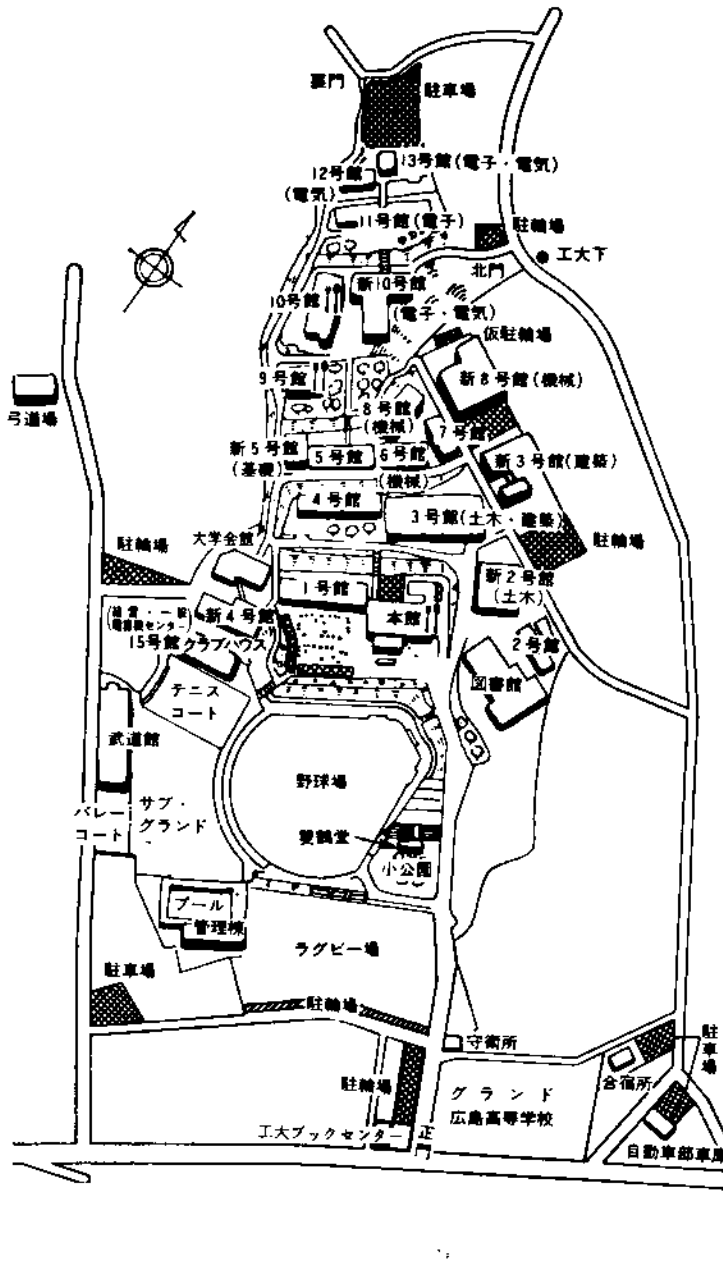
パーソナルコンピューターを使ったアンケート  
トデータ解析法に関する研究

**(菅原先生指導)**

路線型用途地域指定における区分線の研究

幹線道路沿いの土地・建物の利用等による用  
途地域区分の研究

# 広島工業大学キャンパス案内



- **本館**  
総長室・学長室・学園本部・事務部・学生部・就職部・食堂・会議室
- **第1号館**
- **1号館**  
講義室
- **2号館**  
工作室・倉庫  
● **新2号館**  
土木工学科の実験室・研究室
- **3号館**  
体育館・土木・建築学科の実験室・製図室・研究室
- **新3号館**  
建築学科の実験室・研究室
- **4号館**  
講義室・売店
- **新4号館**  
一般教育・経営工学科の実験室・研究室および電子計算機センター
- **5号館**  
一般・基礎教育の実験室・研究室・講義室
- **新5号館**  
基礎教育の実験室・実験室
- **6号館**  
機械工学科の実験室
- **7号館**  
機械工学科の実習室
- **8号館**  
機械工学科の実験室・実習室・製図室・電子顕微鏡研究室
- **新8号館**  
機械工学科の実験室・研究室・ゼミ室・資料室
- **9号館**  
講義室・学生食堂
- **10号館**  
電子・電気工学科の実験室・講義室・学生食堂・売店
- **新10号館**  
電子・電気工学科の実験室・実習室・製図室・研究室
- **11号館**  
電子工学科の実験室・研究室
- **12号館**  
高圧実験室
- **13号館**  
電子・電気工学科の工作室
- **図書館**  
閲覧室・自習室・書庫・共同研究室・視聴覚室・会議室
- **武道館**
- **弓道場**
- **クラブハウス**  
学生のクラブ部室
- **雙鶴堂**  
同行庵(茶室)・和室
- **学生会館**  
学生相談室・保健センター・喫茶ラウンジ・多目的ホール・理容室・C O コーナー

# 五三会活動報告

幹事長 森 田 洋 生

会員の皆様いかがおすごでしょうか。

五三会は、本年度の卒業生で18期目のメンバーを迎えることとなりました。

会員各位におかれましては、広島地区はもちろんのこと、日本各地、果ては海外で御活躍されておりますが、現在、建築界は慢性化した不況下であり、今後共尚一層の辛抱と努力が必要であると思われます。また、そういう時にこそ、この五三会を親睦、情報交換の場として大いに活用していただければ幸いです。

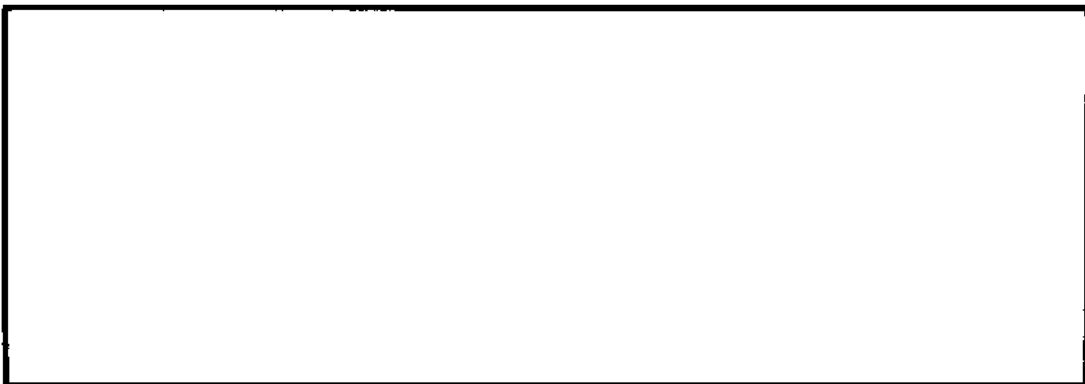
さて、本年度の活動としては、次の様な行事を行ってまいりました。以下ここに御報告申し上げます。

## 報告内容

### 昭和60年度活動報告

1. 第12回定期総会の開催
2. 会報誌「五三会」第13号発刊
3. 第11回五三会コンペの実施
4. 在学生に対する援助
5. 会員住所カードの作成
6. 五三会本部組織の強化
7. 五三会会員増加運動

同窓生が増すにつれ、各幹事の仕事量も増えており、会員各位の尚一層の深い御理解と御協力をお願いしたいと思います。





# 五三会収支決算報告

[昭和59年度収支決算報告]

◆収入の部

繰越金	1,347,356円
新会員会費	640,000
会員会費	245,000
広告料	640,000
雑収入	112,930
合計	2,985,286円

◆支出の部

印刷費	263,700円
郵送費	165,690
会議費	97,700
活動費	69,600
总会負担金	0
コンペ費	360,000
在学生援助費	50,000
バイト費	40,000
消費品等雑費	47,250
学術文化費	50,000
予備費	0
繰越金	1,841,346
合計	2,985,286円

[昭和60年度収支予算(案)]

◆収入の部

◆支出の部

科 目	小 科 目	金 額	科 目	小 科 目	金 額
会費収入		900,000	管理費		440,000
	新会員会費	700,000		总会費	50,000
	会員会費	200,000		会議費	210,000
活動収入		650,000		人件費	50,000
	広告料	650,000		消耗品費	10,000
雑収入		12,654		備品購入費	50,000
	利子収入	1,000		印刷費	40,000
	寄付収入	1		通信費	20,000
	雑収入	11,653		雑費	10,000
積立金取崩収入		0	活動費		954,000
	積立金取崩収入	0		会報発刊費	634,000
繰越金		1,841,346		コンペ費	150,000
	繰越金	1,841,346		会勢費	120,000
合計		3,404,000		学術文化費	50,000
			予備費		110,000
				予備費	110,000
			積立金		1,900,000
				積立金	1,900,000
			繰越金		0
				繰越金	0
			合計		3,404,000

# 広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

## 第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- 1 集 会
  - 1 会員相互の連絡並びに共助に関する事
  - 1 会誌及び会員名簿の発刊
  - 1 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
  - 1 その他本会の目的達成に必要な事

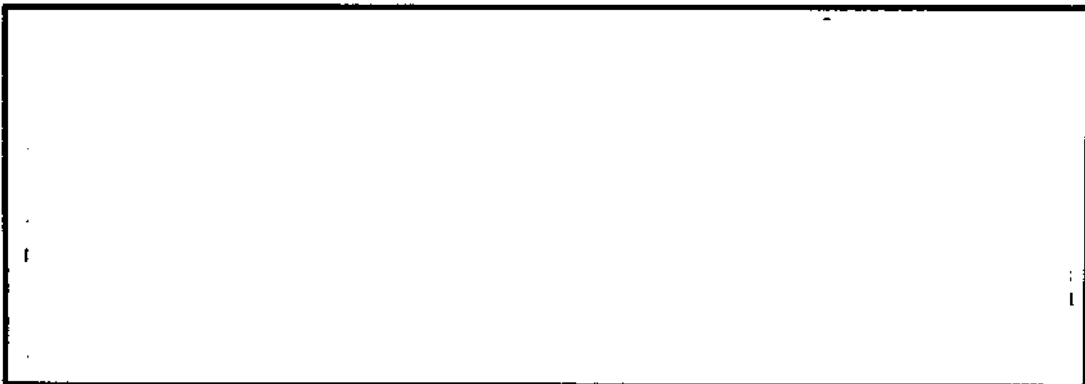
## 第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以って組織する。
- 1 会 員 広島工業大学建築学科卒業生
  - 1 学生会員 広島工業大学建築学科在学学生
  - 1 客 員 母校職員及び旧職員
  - 1 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者。

## 第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- |         |           |        |     |
|---------|-----------|--------|-----|
| 1 名誉会長  | 置くことができる  |        |     |
| 1 会 長   | 1 名       | 1 副会長  | 2 名 |
| 1 会 計   | 2 名       | 1 会計監査 | 2 名 |
| 1 幹 事 長 | 1 名       | 1 幹 事  | 若干名 |
| 1 評 議 員 | 各卒業年度に若干名 | 1 書 記  | 2 名 |

- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- 1 名誉会長は総会をもって推す
  - 1 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・評議員は総会で正会員の中から選ぶ
  - 1 幹事長は幹事の中から互選する
  - 1 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する



- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- 1 会 長 本会を代表し会務を統べる
  - 1 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
  - 1 会 計 会計事務に当る
  - 1 会計監査 会計を監査する
  - 1 幹 事 長 会務を主宰する
  - 1 幹 事 会務を処する
  - 1 評 議 員 会務を評議する

第 9 条 役員任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充しこれによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

#### 第四章 顧問

- 第 10 条 この会に顧問若干名をおく。
- 1 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
  - 1 顧問は会の諮問に応じる

#### 第五章 会 議

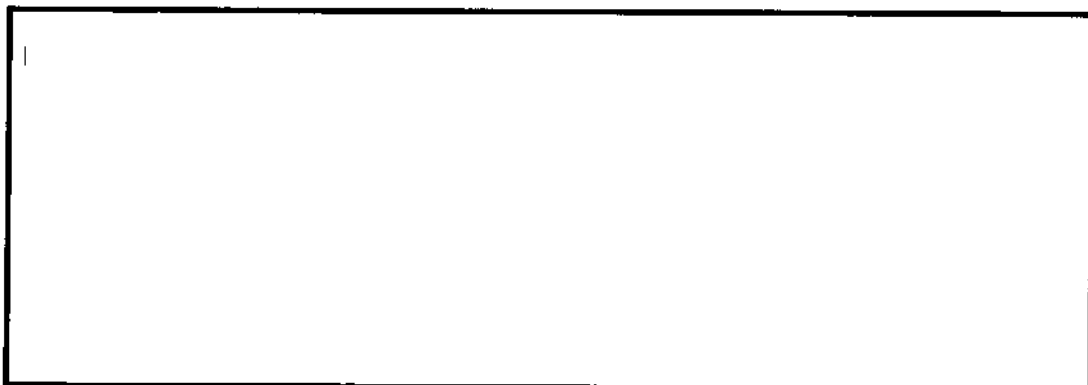
- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会及び役員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- 1 会則の変更と改正
  - 1 役員改選
  - 1 決算及び予算
  - 1 その他重要な事
- 第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。
- 1 総会に附議する原案
  - 1 その他緊急事項の協議
  - 1 この会の運営に関する諸事項
- 第 15 条 会議の議決は会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

#### 第六章 会 計

- 第 16 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
- 1 会員は入会金と終身会費として、入会時 10,000 円を納入しなければならない。
  - 1 学生会員は在学期間の会費として 2,000 円を納入しなければならない。
- 第 17 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

#### 付 則

終身会費については、昭和 58 年度から施行する。



# 役員の変遷

## ◆昭和48年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 青木 能典(44)  
井上 隆寿(48)  
会 計 小田 正志(49)  
平林 三鈴(48)  
会計監査 秋本 孝(44)  
有田 三郎(44)  
書 記 石原 勝博(49)  
古賀 照明(49)  
幹 事 長 金堀 一郎(49)

## ◆昭和49年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 青木 能典(44)  
会 計 坂本 和人(49)  
手越 義昭(49)  
会計監査 有田 三郎(44)  
村上 忠義(49)  
古賀 照明(48)  
近松 一雄(49)  
金堀 一郎(49)  
幹 事 長 金堀 一郎(49)

## ◆昭和50年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 青木 能典(44)  
会 計 近松 一雄(49)  
村上 忠義(49)  
会計監査 椋田 克生(44)  
有田 三郎(44)  
書 記 馬場富次郎(49)  
稲場 孝二(49)  
大原順二郎(49)  
勝田 民雄(49)  
幹 事 長 勝田 民雄(49)

## ◆昭和51年度

会 長 秋本 孝(44)  
副 会 長 椋田 克生(44)  
渡辺 武彦(44)  
会 計 上之 博文(50)  
会計監査 青木 能典(44)

岩田 幸二(47)  
生田 文雄(47)  
幹 事 長 生田 文雄(47)

## ◆昭和52年度

会 長 知野 吉春(44)  
副 会 長 勝田 民雄(49)  
徳清 秀夫(49)  
会 計 河内 浩志(52)  
吉川 澄生(44)  
津田 靖文(50)  
上之 博文(50)  
幹 事 長 上之 博文(50)

## ◆昭和53年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 坂本 知人(49)  
加藤 寛治(49)  
会 計 岩本 慎二(53)  
吉川 澄生(44)  
書 記 下 健蔵(47)  
金堀 一郎(49)  
幹 事 長 金堀 一郎(49)

## ◆昭和54年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 生田 文雄(47)  
徳清 秀雄(46)  
横川 博之(54)  
菅 隆二(50)  
会 計 上之 博文(49)  
書 記 岩田 幸二(47)  
下 健蔵(47)  
幹 事 長 下 健蔵(47)

## ◆昭和55年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 生田 文雄(47)  
下 健蔵(47)  
手越 義昭(49)  
菅 隆二(50)  
会 計 手越 義昭(49)  
馬場富次郎(49)  
書 記 林 憲和(50)  
幹 事 長 中島 伸夫(49)

## ◆昭和56年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 下 健蔵(47)  
生田 文雄(47)  
会 計 背尾 宜徳(52)  
会計監査 菅 隆三(50)  
書 記 森田 洋生(47)  
幹 事 長 手越 義昭(49)

## ◆昭和57年度

会 長 菅原 辰幸(44)  
副 会 長 下 健蔵(47)  
生田 文雄(47)  
会 計 坂田 光彦(48)  
清水 康考(54)  
会計監査 背尾 宜徳(52)  
書 記 森田 洋生(47)  
佐々木正治(48)  
幹 事 長 手越 義昭(49)

## ◆昭和58年度

会 長 生田 文雄(47)  
副 会 長 下 健蔵(47)  
森田 洋生(47)  
会 計 坂田 光彦(48)  
清水 康考(54)  
会計監査 手越 義昭(49)  
書 記 佐々木正治(48)  
幹 事 長 背尾 宜徳(52)

## ◆昭和59・60年度役員

会 長 中塚 晴夫  
副 会 長 青木 能典(44)  
下 健蔵(47)  
会 計 山本 富夫  
山木 忠義  
背尾 宜徳(52)  
会計監査 秋本 孝(44)  
手越 義昭(49)  
書 記 生田 文雄(47)  
幹 事 長 森田 洋生(47)



## 編集後記

先日、久しぶりに工大キャンパスを散策してみました。山からの吹き下ろしの寒風はあいかわらずですが、新設校舎の変貌には目を見張るものがあります。OB諸氏も暇を見つけて、母校に思いを寄せてみてはいかがでしょうか。

発行にあたり、原稿をお寄せ下さいました方々、また多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げますと共に、新たに社会で活躍される卒業生及びOB諸氏の御健闘を心からお祈りしております。

また、より充実した会報にするため、御意見や御希望がありましたら、編集員まで御一報いただければ幸いです。

「五三会」 第13号 編集委員

小川 雅彦 (53)

西本 治雄 (53)

広島工業大学建築学科同窓会誌

「五三会」 第13号

編集責任者 小川 雅彦

発行責任者 中塚 晴夫

印刷所 アクト企画

発行 昭和61年3月1日

